

## 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号： 32606  
 研究種目： 基盤研究(C)  
 研究機関： 2009～2011  
 課題番号： 21520754  
 研究課題名(和文)： 「好奇心と物欲の系譜 - 教養文化とは何であったか？」  
 研究課題名(英文)： Genealogies of Curiosity and Material Desire  
 研究代表者  
 眞嶋 史叙 (MAJIMA SHINOBU)  
 学習院大学・経済学部・准教授  
 研究者番号： 90453498

研究成果の概要(和文)：本研究プロジェクトでは、「消費文化史研究会」開催を通じて、この新領域に関する共通認識を培いつつ、構成員をそれぞれ単独執筆者とする著作シリーズ発刊の準備を進めてきた。成果の一部は、2009年社会経済史学会のパネル報告「消費社会における教養を考える」で公表された。また、2011年度末に開催された国際シンポジウムでは、国内外の研究者25名の講演・発表を通じて、研究成果を集約するとともに、今後の学問的課題を確認した。

研究成果の概要(英文)： This project has gathered together researchers on the history of consumer culture, with a view to publish a book series on this subject area. In 2009, a panel discussion was organized for an annual conference of the Socio-Economic History Society of Japan. The 2012 international conference provided an opportunity to disseminate our research results and to locate them in a much wider perspective.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1200,000	360,000	1560,000
2010年度	1000,000	300,000	1300,000
2011年度	1300,000	390,000	1690,000
総計	3500,000	1050,000	4550,000

## 研究分野：西洋史

キーワード：消費文化史，教養文化，西洋史，経済史，英米文学，国際研究者交流，イギリス

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 1980年代以降、西洋史・社会経済史の分野では「消費史」「生活史」等のマイクロレベルでの人間行動を「下からの歴史」として細密に検証する研究が脚光を浴び、また一方で、英文学の分野では「ニューヒストリシズム」という研究方法が、文学の背景となる歴史的資料に着目し、また文学テキストを歴史資料として用いることで発展してきた。これらの先駆的な研究は、それ以前の「経済史」「思想史」という大きな枠組みを超えるものとして注目され、様々な研究を輩出してきた。本研究プロジェクトは、過去の歴史研究が立脚

する認識論的基盤を再検討し、既存の国内研究を統合する枠組みとしての「消費文化史」の提示を模索する試みとして始まった。

(2) 欧米における既往研究も、1970年代以降の急速な学問領域の拡大とともに分断されてきた経緯があり、過去に提示された大きな中心的課題を、各分野で精密な資料分析を用いて反証することに力点が置かれる傾向があった。近年の人文社会科学再編成の流れの中では、歴史的な問題意識の原点回帰とも読み取れるような研究課題設定がなされてきており、「グランドナラティブ」として避け

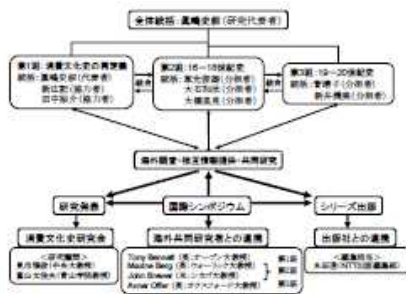
られてきた「産業革命」および「啓蒙思想」等の概念も、反証的ミクロ研究の成果を取り込んだ形での再提示が進んでいる。本研究の問題関心と同様に、「消費」を中心に据えた年代・学問領域横断的な共同研究が多数みられる状況を受けて、現代性を帯びた「消費」概念を基軸とした枠組みづくりが日本の研究共同体にも必要であるという判断が生じたため、本研究を始めることになった。

## 2. 研究の目的

現代の情報化と市場万能主義の社会において、文化・教養もまた断片的な商品として扱われることが多い。そのような状況下において、専門分野の枠を超えて研究者たちが親密な交流を行い、新しい価値を創造することがより強く求められているという認識を抱えている研究者は各分野に存在する。本研究代表者はそのような認識を集約して本プロジェクトを開始した。さまざまな可能性に満ちた消費の概念自体を歴史的に問い直すことで、個人と社会の複雑な相互形成のプロセスを多面的に浮かび上がらせることができるのではないかと。そして文化・教養をもより主体的な消費として捉える作業を通じて、時代を超えた人間の全体性を再評価していただけるのではないかと。そのような考えのもとに、経済史に加えて、西洋史、文化史、文学を専門とする様々な専攻領域をもつ研究者が集まり、リベラル・アーツの新たな理想形を実践的な大学教育の中で模索していくこと、それが本プロジェクトの目的であった。

## 3. 研究の方法

(1) 本プロジェクトの母体である「消費文化史研究会」は、2008年3月の発足以来、消費文化史をキーワードに毎回異なったテーマで発表者およびディスカッサントを招き、2010年度まで年に3~4回の配分で研究課題報告会を開催した。その定例会合を通じて、「消費」と「文化」の接点を模索し、社会学・心理学・経済学的アプローチと歴史研究の融合を試みる中で、分野横断的な共同研究をおこないながら共通認識を培ってきた。



(2) 2011年度は、下記(3)の国際シンポジウ

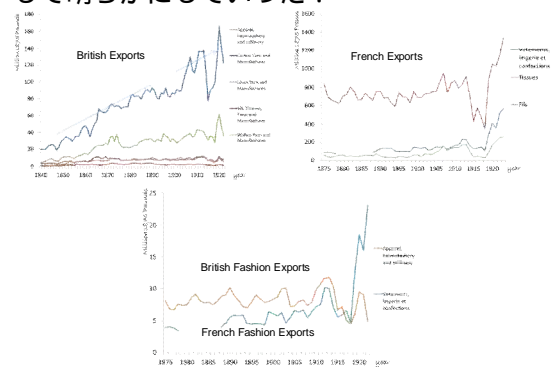
ムの準備を進めるとともに、2012年度より刊行予定である、シリーズ「消費文化史の試み」(NTT出版)のための執筆報告会を随時開催し、多岐にわたる消費文化史研究の成果を共有し、それぞれ単行本刊行に向け執筆を進める過程において、報告・討論を繰り返すことで集合的知識を活用する努力がなされた。

(3) 2011年度末には、東日本大震災により2012年3月に延期された国際シンポジウムを開催し、著名な基調講演者3名を含む、20名あまりの国内外の研究者らとの討議を通じて、さらなる理論の精緻化を行った。同時にその共同研究の成果をプロシーディングス形式でも公表し、本プロジェクトの成果を内外の研究者に発信する努力を継続している。

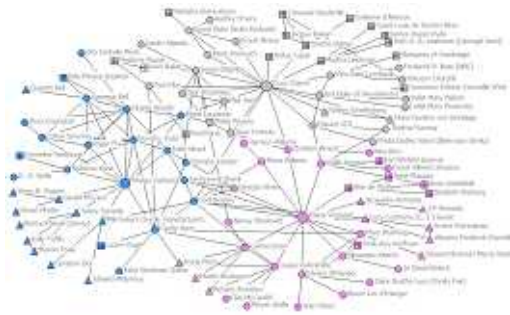
## 4. 研究成果

本研究プロジェクトの成果は、5.に後述する諸々の学術論文、研究会・学会発表、研究著書として公表されている。プロジェクト構成員によるテーマごとの研究成果の一部は、後述の国際会議プロシーディングス Genealogies of Curiosity and Material Desire に掲載され、全体像はさらに2012年後半に刊行予定の単行本シリーズにて公表される。以下に、それぞれのテーマごとの研究成果の要点を列記する。

(1) 眞嶋は、「ファッション(流行)」を切り口にイギリスにおける産業革命期をはさんだ長期にわたる繊維/織物/服飾産業の発展を中心に消費文化史を描いてきた。すでに研究をまとめていた20世紀後半の事例に加え、17~18世紀以降の研究課題を確認し、19世紀に関しては、貿易統計や服飾業界新聞等の資料を用いて、イギリスが作り上げた世界的なスタンダードがいかに強力な経済軍勢力を背景に重要性を持ち続けていたか、産業の盛衰と消費者嗜好の変化に対する分析を通じて明らかにしていった。



上図は、20世紀の両大戦間期にフランスに逆転されるまで、通説に反して、19世紀を通じてイギリスにおけるファッション生産の優位性が持続した状況を端的に表している。



また、フランス優位の背景としては、デザイナーや雑誌記者らによるイギリスでの社会的ネットワークが重要であったことが、上図の分析により明らかになった。本研究では、流行産業の本格的形成前の、流行を生み出すメカニズムの萌芽過程の一端が解明された。

(2) 草光は、「コレクション」の歴史的探究を主な対象として研究を進めた。ルネサンス時代に始まった上流階級の珍品のコレクションは、当時の知識人たちの間で広く関心を持たれた。それは蒐集者の強い好奇心から行われ、歴史資料（コインや書籍）から博物学的なもの（動物、植物、鉱物）など多岐にわたっていた。やがてコレクションの性質は、歴史を好物的に調べる古事物研究者、博物学者などへと分化していく。草光は、ヨーロッパのみならず世界全体に広がるコレクションのネットワークを歴史的に調査し、特に本研究では、具体的に、植物学の発展と植物の消費に焦点を絞りつつ、近代的な知の形成に関して一定の見取り図を得た。

(3) 新井は、「ヘリテージ」「ツーリズム」に注目し、「教養と消費」、そして「ヘリテージ文化と消費」という観点を中心に発表を行ってきた。イギリスにおける「財力誇示のための消費」としての使用人文化を著書にまとめ、サヴォイ・オペラを研究対象として分析してイギリスの大衆演劇とその観客と階級についての発表を行った。「ハリー・ポッター」などのイギリスにおける寄宿学校を舞台にした一連の大衆小説の消費と階級意識について論じたほか、ジェイン・オースティンの作品とその人気について「教養と消費」の観点から発表し、またイギリスにおける海水浴、観光と階級について、「ヘリテージ観光と消費」という視点から分析、研究発表を行っている。

(4) 大橋の研究は、「オークション」に着目し、様々な文化財や奢侈品の所有と、それらの流通方法を 18 世紀イギリスにおいて解明することで、文化財・奢侈品消費の、当時における社会的・経済的意味を歴史的に位置づ

けることを目的としている。近代型の市場経済への転換期である 18 世紀に消費と流通を促進した取引方法が「オークション」であった。大都市においては、美術芸術作品や各種の不動産を独占的に取り扱う専門商人によって運営されていたが、地方では、他のトレードを生業にする者や、共同体内で役職に就いている者などが、必要に応じてオークション開催を組織し運営するケースが少なくなく、全体には、オークション業とその業態は未成熟であった。本研究では、1790 年代の地方都市のオークショナー-auctioneer に関するデータを集積し、彼らの生業の種類と社会的身分の分析を試みた。その結果、18 世紀末のオークションの運営が、それのみで生計を立てるに十分なトレードであったとはいえないと推論した。本研究での成果によって、上記の最終目的を追究するうえでの重要な一面を明らかにできた。

(5) 菅は、「インテリア」「エクステリア」に着目し、「大英帝国」を家庭で「消費」する作業の一つとしての 19 世紀～20 世紀前半のイギリスに於けるさまざまな異国趣味の流行に着目し、とりわけこれが室内装飾の分野にもたらした影響について、内装業界誌、家庭雑誌の記事や広告のテキスト及び図像分析を用いて質的な研究を行うことを目標とした。ナショナル・アート・ライブラリー、ウェストミンスター市文書館やハロッズ・アーカイヴなどにて資料収集および調査を行い、また、女性ジャーナリストによる室内装飾論など、広範囲な資料を視野に入れたことで、当時の室内装飾の理論と実践の乖離を確認することができ、いかに 19 世紀後半に室内装飾に関する消費文化とそれを支えるメディアが質量ともに拡充していったかが改めて確認された。また本研究を契機として、19 世紀後半のファッション史のなかでの帽子と造花産業の関わり、およびこれと鳥類保存という動物愛護の社会的運動との繋がりという、領域横断的な消費文化史の研究課題を新たに得ることができた。

(6) 大石は、18 世紀における消費文化と「チャリティー」の関係について、特に奴隷貿易廃止運動を消費というキーワードで読み替える作業を行い、歴史的な見通しを得ることができた。18 世紀のイギリスにおいて広く浸透した消費文化は、「チャリティー」という社会・宗教的行為のあり方まで変容させることになった。大石は、こうした一連の消費活動・慈善との関連を、従来の歴史学で扱われてきた一次資料だけでなく、これまで歴史家たちが看過してきた挿絵、絵画、文学といった表象や言説をも資料として取り込むことで、「文化」としての消費活動ならびに慈善

活動を捉える成果をまとめた論文発表，口頭発表を持続的に行ってきた。

(7) 新は、「ギャンブル」に着目し，イギリス 18 世紀の富くじから 20 世紀後半以降のプレミアムボンドにつながるギャンブル的な投資形態を，消費という観点から捉えなおす作業を行ってきた。ギャンブルの論理と現実を様々な資料から浮かび上がらせることによって，旧来の消費，投資，貯蓄という人為的な境界に疑問を投げかけ，消費を梃子にした新たな金融観を提示することがその目標であった。本研究を通じて，イギリスの各種資料館に点在する資料の収集を行い，学会発表や論文を通じて適宜調査結果の公表を行うと同時に，新たな問題点の発掘や議論の深化を試みた。その結果，富くじとリンクされた金融商品と，金融市場における購買者の選好，長期的な視野からのイギリス社会におけるギャンブル間の変遷，政治と公的機関による貯蓄商品のデザインなど，ギャンブルを巡る多彩なコンテクストが発見され，それらをつなぐ歴史的ギャンブル観，そして金融観の変遷がある程度明らかにされた。

(8) 田中は，19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけてのイギリスにおける文化としての「消費」の形態を多角的に描き出す研究を一貫して行った。19 世紀半ばに一つのスタイルを確立した中流階級の「消費」の形態が，ヴィクトリア時代後半以降，より広い層の「大衆」に普及する現象に着目し，その「消費」のスタイルの伝播のメカニズムを分析するにあたって，「文化」＝「教養」という概念が果たした役割が大きいという仮説を立てて分析を進めた。その「文化」＝「教養」の内実が，この時代においては旧来のような人文学の古典の知識ではなく，生活様式の洗練化のための効率的な知恵を意味していたという理解に基づき，「消費」における「効率性」の概念がいかなる歴史的役割を担っていたのかに関する調査を行った。以上の成果に基づいて，19 世紀末に活躍した作家オスカー・ワイルドを新しい「消費」行為を実践したモデルとして解釈する研究書をまとめる予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 16 件)

1) 眞嶋史叙，British Fashion and the World Market: when did France take over? Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 査読無，Tokyo, 2012, 83-88

2) 草光俊雄，Consuming Plants: Botany and Consumer Society', Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 査読無，Tokyo, 2012, 7-10

3) 大橋里見，Auctioneers are Everywhere: Auctioneers Place in Eighteenth Century Britain', Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 査読無，Tokyo, 2012, 59-68

4) 菅靖子，Green Debates on Industrial Conservatory : Great Exhibition and Its Influence on the Consumer Culture of Plants', Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 査読無，Tokyo, 2012, 27-34

5) 新井潤美，Class and Leisure: The English Seaside Holiday', Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 査読無，Tokyo, 2012, 43-48

6) 大石和欣，Sentiment, Consumerism, and the Culture of Giving in Eighteenth-Century Britain', Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 査読無，Tokyo, 2012, 115-122

7) 新広記，Saving with Excitement? The Premium Bond and Consuming Savers in Post-War Britain , Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 査読無，Tokyo, 2012, 49-58

8) 田中裕介，Reconsidering the Fabian Concepts of “Efficiency” and “Consumption” , Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 査読無，Tokyo, 2012, 95-100

9) 大石和欣，「ある道路工事人と唯美主義者の肖像 - ワイルドの社会主義とアメリカ講演」，『オスカー・ワイルド研究』，査読有，11号，2011，67-76

10) 眞嶋史叙，「グローバル・ファッションと教養化」，『学習院大学経済論集』，査読無，48巻1号，2011，65-82

11) 田中裕介，「The Premature Burial of Liberalism: Inadequate Fetishists in Oscar Wilde's The Picture of Dorian Gray」，一橋大学大学教育研究開発センター『人文・自然研究』第4号，2010，243-65

12) 新井潤美，「イギリスにおける「教養」の否定」，『比較文学研究』，査読無，95号，2010，79-89



- 13) 菅靖子, 「両大戦間期イギリスの空間のジャポニスムにみる生け花・盆栽の影響」, 『デザイン学研究』, 査読有, 47巻4号, 2010, 1-10
- 14) 眞嶋史叙, Affluence in the Making: The 1953-54 Household Expenditures Enquiry and Visualization of Taste, CRESC Working Paper Series, 査読有, 第76号, 2009, 全22頁
- 15) 眞嶋史叙, 「『豊かな社会』への道程 1953-54年英国家計調査データの分析から」, 『学習院経済経営研究所(GEM)年報』, 査読無, 第23巻, 2009, 65-85
- 16) 田中裕介, 「Ruskin, the Theatre and Victorian Visual Culture. Eds. Anselm Heinrich, Katherine Newey and Jeffrey Richards (書評)」, 『ディケンズ・フェロウシップ日本支部 年報』第23号, 2009, 29-33

〔学会発表〕(計17件うち招待講演1件)

- 1) 眞嶋史叙, British Fashion and the World Market: when did France take over? History of Consumer Culture 2012 Conference: Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 27 March 2012, Tokyo
- 2) 大石和欣, Sentiment, Consumerism, and the Culture of Giving in Eighteenth-Century Britain, History of Consumer Culture 2012 Conference: Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 27 March 2012, Tokyo
- 3) 草光俊雄, Consuming Plants: Botany and Consumer Society, History of Consumer Culture 2012 Conference: Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 26 March 2012, Tokyo
- 4) 菅靖子, Green Debates on "Industrial Conservatory: Great Exhibition and Its Influence on the Consumer Culture of Plants", History of Consumer Culture 2012 Conference: Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 26 March 2012, Tokyo
- 5) 新井潤美, Class and Leisure: The English Seaside Holiday, History of Consumer Culture 2012 Conference: Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 26 March 2012, Tokyo
- 6) 大橋里見, Auctioneers are Everywhere: Auctioneers Place in Eighteenth Century Britain, History of Consumer Culture

2012 Conference: Genealogies of Curiosity and Material Desire: How Has Consumer Taste Been Constructed? 26 March 2012, Tokyo

- 7) 新井潤美, 『「学校もの」とハリー・ポッター』, 日本イギリス児童文学学会東日本支部秋の例会講演, 2011年10月1日, 東京
- 8) 眞嶋史叙, Consumer Taste and Supply Control: Shopping and Spending in the Early 1950s, CRESC Conference 2010 Social Life of Methods, 2010年9月3日, 英国オクスフォード大学
- 9) 新井潤美, 「ジェイン・オースティンと階級社会」, 千葉大学英文学会第34回大会, 2011年12月1日, 東京
- 10) 新井潤美, 『サヴォイ・オペラと「イギリス的」演劇』, 日本英文学会第83回全国大会シンポジウム「近代イギリス演劇におけるスペクタクルと音楽」, 2011年5月1日, 北九州
- 11) 新井潤美, 「イギリスにおける「教養」の追求」, 日本比較文学会第72回全国大会シンポジウム, 2010年6月20日, 東京工業大学
- 12) 新井潤美, 『「教養」のための観光 イギリスのカントリー・ハウス産業』, 社会経済史学会, 2009年9月27日, 東洋大学
- 13) 眞嶋史叙, 「グローバル・ファッションと教養化 戦間期のミューズ達と国際消費文化ネットワークについて」, 社会経済史学会, 2009年9月27日, 東洋大学
- 14) 新広記, 「愚かな投資家? - イギリス国営富くじと経済的『教養』」, 社会経済史学会, 2009年9月27日, 東洋大学
- 15) 田中裕介, 「角砂糖とイギリス「現代」芸術」, 社会経済史学会, 2009年9月27日, 東洋大学
- 16) 新井潤美, 「Tilneys and Trapdoors: ジェイン・オースティンと『観光』」, ジェイン・オースティン研究会(関東)第5回例会, 2010年9月19日, 青山学院大学
- 17) 新井潤美, 「イングリッシュネスと階級(招待講演)」, 「ヴィクトリア朝以降の英国ナショナル・アイデンティティ構築に関する融合的研究」研究会, 2009年9月7日, 札幌

〔図書〕(計8件)

- 1) 眞嶋史叙, Sage Publications, Dale Southerton Ed., Encyclopedia of Consumer Culture, (眞嶋史叙著 Consumer Expenditure Survey) 2011年, 266-268
- 2) 眞嶋史叙, Sage Publications, Dale Southerton Ed., Encyclopedia of Consumer Culture, (眞嶋史叙著 Clothing Consumption) 2011年, 177-179

3) 新井潤美, 白水社, 『執事とメイドの裏表—イギリス文化における使用人のイメージ』, 2011年, 全250頁

4) 新井潤美, NHK出版, 『ジェイン・オースティンとイギリス文化』, 2010年, 全191頁

5) 新井潤美, 溪水社, 松岡光治編『ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化 生誕二百年記念』,(新井潤美著「階級理想と現実」), 2010年, 65-82頁

6) 新井潤美, 白水社, アラン・ベネット著『やんごとなき読者』解説「知的でないことの重要性」, 2009年, 153-161頁

7) 菅靖子, Athena Press, 別冊解説論文『『ホームズワース家庭生活百科事典』- 両大戦間期イギリスのメディアと社会』, Harmsworth's Household Encyclopedia: a practical guide to all homecrafts (復刻版), 2009年, 全27頁

8) 新広記, University of Helsinki, Palmenia Centre for Continuing Education and the City of Kouvola, Business Strategy and Corporate Image: Britain's Railways, 1872-1977, Heli Mäki and Jenni Korjus (eds), *Railways as an Innovative Regional Factor*, 63-84

〔その他〕

ホームページ等

「消費文化史研究会」ウェブサイト

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/20070019/HCCindex.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

眞嶋 史叙 (MAJIMA SHINOBU)

学習院大学・経済学部・准教授

研究者番号: 90453498

### (2) 研究分担者

草光 俊雄 (KUSAMITSU TOSHIO)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号: 90225136

新井 潤美 (ARAI MEGUMI)

中央大学・法学部・教授

研究者番号: 70222726

大橋 里見 (OHASHI SATOMI)

専修大学・文学部・非常勤講師

研究者番号: 40535598

菅 靖子 (SUGA YASUKO)

津田塾大学・学芸学部・准教授

研究者番号: 20312910

大石 和欣 (OISHI KAZ)

名古屋大学・文学研究科・准教授

研究者番号: 50348380

### (3) 連携研究者

富山 太佳夫 (TOMIYAMA TAKAO)

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号: 70011377

見市 雅俊 (MIICHI MASATOSHI)

中央大学・文学部・教授

研究者番号: 30027560

### (4) 研究協力者

新 広記 (SHIN HIROKI)

英国ヨーク大学・歴史学部・研究員

田中 裕介 (TANAKA YUSUKE)

成城大学・文学部・非常勤講師